

停年を控えたOB・OG諸君へ

0期 田村 昭夫

公的年金制度を、現行の「世代間扶養型」から「積立型」に大至急変更すべきである。即ち、各自が現役時代に積み立てた金額の支給を受け取れば、年金終了である。

但し、これは民間の生産企業に勤務した者だけであり、非生産的企業や公務員に適用する訳にはいかない。我々の血税で雇っている公務員は日給制とし、ボーナス、退職金、年金などものの外。公務員は使い捨てにする為存在する。彼等の老後の面倒をみる義務など我々納税者にはない。公僕とは、納税者に雇われた奴隷の意味である。

私は、ある民間会社の元月給取りである。現役時代に私と会社で積み立てた厚生年金が切れたら、その後の年金は辞退するつもりでいる。

「働かざる者、食うべからず」と云うではないか。自然の生き物を見倣うべきである。餌をとれなくなれば死ぬしかない。病院では何の義理で、死ぬしかない老人を生かすのか。病院で負担する全てが、生産年齢にある若い人達に依ることは自明である。

そこに安楽死の道が見えてくる。若者達に夢と希望を与え、彼等に未来を託して、私達老人は残された日々を自力で生き抜いて、鮮やかな光芒を放ちつつ、この世を逝こうではないか。

拜啓

めっきり涼しくなりました。雪便りの恋しい昨今です。是非、野沢のスキー合宿を盛大にやろうではありませんか。

私は毎日、朝からワインを飲みながら超弦理論を考えています。これが出来ればノーベル賞間違いなし。今、シュレディンガーの波動方程式を検討中です。

シュレディンガーは物質の極限が素粒子であることを前提とした為に、あの様な方程式を立ててはならなかったのです。私ことワインシュタイン馬鹿は物質の極限は越弦とした為に自分でもがき苦しんでいます。夏、お渡ししました5枚目の論文に少しだけ追加しましたので、それをお送りします。

「ネイチャー」からはまだ何の連絡もありません。一足先に「やまざと」であの英文論文を発表いただければ幸甚です。皆さんの意見をお聞きしたいのです。

敬具

(別便)

ネイチャーに投稿した論文は、残念ながら掲載を拒否されました。

新しいパラダイムを作る者は、当初はこの様な仕打ちを受けるのが常です。私の理論はワネル諸君には受け入れられるものと信じて疑いません。

会 津 日 報

1998.3

現在六十歳前後の人で嘗て大学入試を体験された方なら大抵思い出されるであろう。毎晩十一時になると民放のラジオから流れてきた旺文社提供の大学受験ラジオ講座のテーマ曲である。息子が受験期になったので当時を懐かしむ為にCDを買ってきて聞いてみた。なんとつまらぬ曲だろう。私達世代はこの曲に爛れたてられて無味乾燥な受験勉強の彼方



「大学祝典序曲」

田村 昭夫

憧れて入学したところは高校の授業に毛の

生えた程度の講義。しかも休憩ばかり。期待が大きければ裏切られた失望はもっと大きい。友人達はダンスとマージャンに走っていた。ブラームスの「大学祝典序曲」が色褪せて感じられたのも多分、私の大学生活への幻滅の思い出と重なった為だろう。

現在の日本の大学も四十年前とさほど変わってはいないだろう。猫も杓子も行くようになった現在の大学ではさらには下がってはいない。賢い青年は日本の大学へは行ってはならない。

に大学合格を夢見たものである。

God, Existence and Time

A. Weinstein
Bergheim, Kanazawa University, Japan

Introduction

There are known to be four kinds of forces: Gravitational, strong, weak, and electromagnetic. We can find a new force, which I have called 'repulsion', that unites all four forces (Figure 1) by accepting the following three conditions:

- i) Absolute time is the surface area of the universe
- ii) Time, as measured by a clock, is a parameter of entropy and absolute time
- iii) Ultimately, matter are superstrings

Hypothesis

Time can be represented as the surface area of the universe, and can be given by

$$t = 4\pi R^2$$

where t is the absolute time and R is the radius of the universe (Figure 2).

Discussion I

The dimension of absolute time is given by $[L]^2$. The physical image of matter scattered across the surface of the universe is given by

$$\Sigma \Lambda s / 4\pi R^2$$

where $\Sigma \Lambda s$ is the total matter (superstrings) of dimensions $[M]/[L]$.

The dimensional constitution is

$$([M] / [L]) / [L]^2 = [M][L]^{-3}.$$

The dimensional constitution of force, F , is

$$[M][L] / t^2$$

where $t = [L]^2$. Therefore, we can say

$$F = ([M] / [L]) / [L]^2 = [M][L]^{-3},$$

that is to say,

$$\Sigma \Lambda s / 4\pi R^2 = F$$

Discussion II

Entropy is defined by

$$S = E / T$$

where E is the energy and T is the absolute temperature.

The dimensional constitution gives us

$$S = [M][L]^2 / [T]^2$$

where

$$T = E / N$$

and N is the number of composed matter. Therefore, by substitution, we see that

$$S = N.$$

Discussion III

The universe was originally full of energy. However, entropy appeared after the Big Bang.

Entropy continues to increase as the universe expands.

Einstein considered that time is the reach distance of light. That is to say,

$$t = ct' \quad (1)$$

and

$$t = [L] \quad (2)$$

where t is the absolute time, t' is the time as measured by a clock, and c is the velocity of light.

At this time, atoms are considered to have been the ultimate matter. An atom's dimensions are given by

$$[M] / [L]^3. \quad (3)$$

Substituting (2) and (3) into the formula for the physical image that relates the universe and matter, we get

$$\Sigma \Delta p / 4\pi R^2 = ([M] / [L]^3) / [L]^2 = [M] / [L]^5 \quad (4)$$

where Δp represents atoms and R is the radius of the universe. Using the force dimension on one side, we get

$$[M][L] / t^2 = [M][L] / [L]^2 = [M] / [L] \quad (5)$$

In this theory, no force is induced because time is considered as being one-dimensional. Also, note the strong similarity with Boit-Savart's law.

$$H = \Sigma M / 4\pi R^2$$

where H is the magnetic field, M is the electrical current, and R is the radius of the current cycle.

Due to the strong similarity of the formulae, it seems apparent that existence equates to a force. I believe that this force unites the existing gravitational, strong, weak, and electromagnetic forces.

Conclusion

I conclude that firstly, existence is the force at the center of the universe by which the universe is expanding. Secondly, this force (named 'repulsion') unites the four existing forces: gravitational, strong, weak, and electromagnetic. Finally, time, as measured by a clock, is only a parameter of entropy and absolute time.

Remarks

I have obtained this important conclusion from a simple hypothesis. I have only discussed details in terms of dimensions. To quote Sir Arthur Stanley Eddington, "The most important thing in physics is to think dimensional equivalency."

Acknowledgment

I wish to thank S.Funada for corrections to my dissertation.

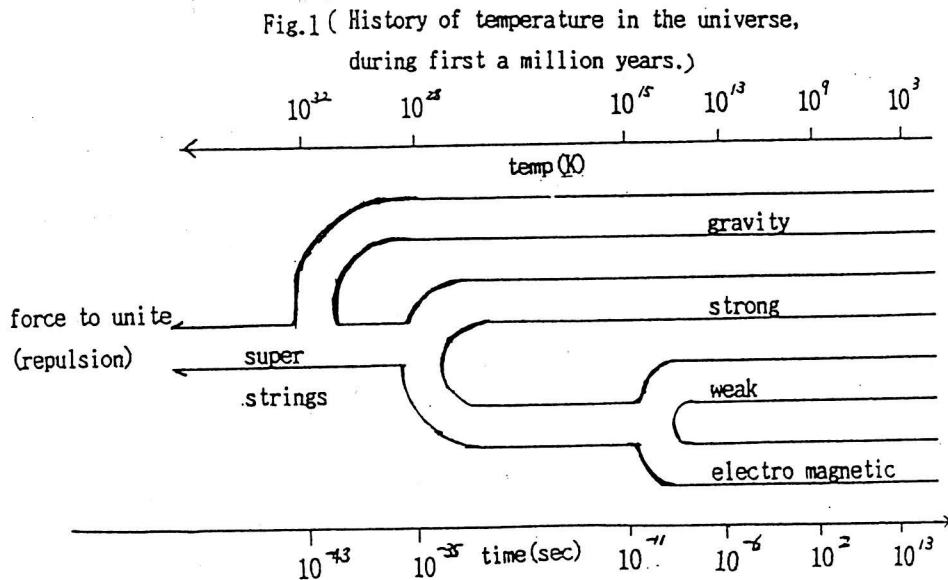
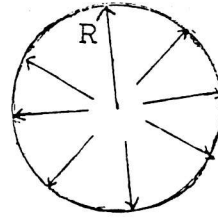


Fig.2 (Big Bang Universe)



$$t = 4 \pi R^2$$

t; universal (true) time

R ; radius of the universe

cf.1

Length of Super String

$$l_p = \sqrt{\hbar \cdot G / c^3} = 10^{-33} \text{ cm}$$

h: Planck constant $10^{-27} \text{ g} \cdot \text{cm}^2 \cdot \text{s}^{-1}$

G: gravity constant $6.7 \times 10^{-8} \text{ cm}^3 \text{ g}^{-1} \text{ s}^{-2}$

c: velocity of light $3 \times 10^{10} \text{ cm} \cdot \text{s}^{-1}$

cf.2

Einstein's energy equation, $E=mc^2$, was induced approximately from principle of relativity. I, Weinstein obtained easily this equation from Minkowski formula and dimensional constitution.

$x^2 + y^2 + z^2 = ct^2$ ----- Minkowski formula

$$ct^2 = [L^2] \text{ ----- (A)}$$

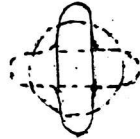
$$E = [ML^2 t^{-2}] \text{ ----- (B)}$$

substitute (A) to (B), that is $E=mc^2$

cf.3

SUPER STRING(1)  observed waves
as

SUPER STRING(2)



standing waves on a circle
(observed quantum)
as

$$\begin{array}{ccc} \text{ENERGY} & \longleftrightarrow & \text{MASS} \\ (m c^2) & n & (m) \\ & (T^{-1}) & \end{array}$$

Energy and mass are in proportion to frequency of super string; that act as agent each other.

Mass is equal to energy. (色則是空)

m; MASS

n: Frequency of super string

$$E = mc^2 = hn$$

$$m/n = h/c^2 = (2/3) \cdot 10^{-47} \text{ g} \cdot \text{sec}$$

The weight of super string (m) is $(2/3) \cdot 10^{-47} \text{ g}$

The ether mean super strings sea.

四十年振りの修学旅行

0期 田村 昭夫

三月末に、会津高校の修学旅行で京都へ行ってきた。参加者は約四十人、先生は一人である。

(昭和20年代末の我々の高校時代は修学旅行がなかった。1年下の学年から復活した。)

修学旅行参加者の顔触れを見ると、所謂学校秀才は見当たらなかった。学業とクラブ活動をそれなりにバランスをとっていた連中ばかりである。

秀才達はどうしたのか。私なりに考えてみた。到達した結論は

「秀才達は燃え尽きた」

のである。高校時代は勉強に、社会に出てからは企業戦士として。力尽きた彼等の冥福を祈らずにはいられない。無論、人生のレースはこれで終わった訳ではない。秀才諸君の再度の奮起を促すものである。

私達は幕末の京都で死んだ会津藩士の墓参りもした。会津藩墓地のある黒谷光明寺では、京都会津会の方々の思わぬ出迎えを受けた。

その中のお一人は右京生活を守る会会長として活躍されている由。京都守護職は今も健在である。世界の幕末とも言うべき現在、私達会津人は、墮落腐敗した薩長製のこの国を見限り、世界に目を向ける。先輩達の墓前に額突き、各々誓いを立てた。

昭和55年放映のNHK大河ドラマ「獅子の時代」の会津藩士平沼銑治役菅原文太のテーマ音楽となった“Our History Again”がその間、私達の耳には聴こえ続けていた。

山で命拾いした話

1990年7月末、私は飯豊山頂をめざして草付きの種蒔山の尾根を一人歩いていた。

青空が急に暗雲に覆われ、雹が降ってきた。雷鳴がとどろき、夕暮の様になった。私はツェ

ルトを被り、嵐の去るのを待った。

網シャツ一枚の上半身で寒さに震えていると、「もしもし、ここでは危険です。切合小屋まで下がった方がいいですよ。」

と声をかけた人がいた。ツェルトのチャックを外して見ると、山頂から下ってきたらしい完全武装の中年女性だった。

「有り難うございます。しばらくすれば止むでしょうから」

と答えたが、彼女はしきりに下山を勧めた。それでも私が云うことをきかないので、仕方なく「気をつけて下さい」と云って下っていった。

やがて嵐が止んだようなので、私はツェルトを被ったまま、ゆっくりと立ち上がった。と、突然稲光と同時に雷鳴が轟き、私は大地に叩きつけられた。

それでも私は生きていた。奇跡としか思えない。嵐は去り、青空が戻り始めた。稜線には私一人が茫然と立ち尽くしていた。

先刻の女性は誰だったのだろうか。観音様だったのか、マリア様だったのか。

私案 北陸州立大学

北陸地方の大学は州立一校で十分である。国立や私立大学はもはや不要である。

北陸州立大学の本部を金沢に置き、医学部、文学部、理学部は金沢大が引き継ぐ。薬学部、経済学部は富山大が継ぐ。工学部、法学部を福井大が継ぐ。教育学部は各県立とする。各地域の伝統と特色を生かすと、この様な配分になると思うが如何なものか。

現在進行中である角間地区への工学部、薬学部の移転を中止して、前者を福井へ、後者を富山へ移す。北陸先端技術大学院大学は現在の辰口で国立のままで良い。

又、学生数は現在の半分で良い。そして、社会人を受け入れる開かれた大学にする。大学人は角間に籠もらず、香林坊に出没すべし。

少子化がさらに進み、生涯教育が叫ばれる昨今、教育改革は急がねばなるまい。古来金沢は

天下の書府として広く世間に知られてきた。日本の教育改革は金沢から起きて当然である。

以上が私案であるが、これを叩き台として、議論の輪が広がれば幸甚である。

北の都の思い出

紺清君 (6期OB)

0期 田村 昭夫

「何時迄大学に居るつもりや！早う卒業せんかいま！」

と彼に叱られたのは、私が大学8年生の時だった。

何とか小立野の専門課程進学が叶った秋、下山君の下宿で飲んで騒いでいた私には、こたえる一言だった。

その場で、彼と一緒に卒業することを約束させられた。もっとも、あと2年半の在籍しか許されない崖っ淵に立つ私としては、彼に云われるまでもなく、背水の陣を敷いていたのだが、率直な彼の言葉を有り難く受けた。

他の諸君も、多分彼と同じ思いだったのであろう。先輩である私に氣を使って、口にしなければに過ぎない。

そんな紺清君は、非常に勘の鋭い、早熟な男だった。繊細な神経を持っていた彼は、太宰治の熱心な愛読者でもあった。また、ニーチェを崇拜していて、「ツァラストラはかく語りき」をドイツ語で読みこなす努力家でもあった。

彼の卒論は、教育学部の学生らしからぬものだった。テーマは「愛とは何か」であり、結論は唯一行「愛とは修行也」。

小学校の教諭となつてからは「ママゴンとの対決」に疲れて、休職した時期もあった。子供の教育を母親に任せて、小銭稼ぎに専念する父親にも怒りをぶつけていた。多分、現在の教育の荒廃を彼は予知していたのだろう。

短い生涯だったが、彼の残してくれたものは大きい。

*1 彼の人柄を現す側面

結婚式の時、花婿の彼が、花嫁の肩を借りて酔っぱらって入場してきた。テレ屋の彼のことから、酒の力を借りなければ晴れがましい場に出れなかったであろう。

共通した一面を持つ私には良くわかる。

*2 天国からの紺清君の声

ワングルOB会何しとるかいや！舟田にもっと協力せんかいや！しっかりせんかいや！ダラ！

(教祖よりOB、OG会員へ)

会費未納、音信不通のOB・OG会員は、左手の小指第2関節をツメて、舟田事務局長迄、送付すべし。期限5月末日。

(編者注；編集時点で期限切れです。

該当する方、よかったですね！)

背くもの (遺稿 '69.1)

金沢市立牧山小学校

6期 紺清 敬一

「8時からテレビを見た。ふるさとの歌まつりだ。それも、ぼくたちが今一番関心を持ってている沖縄からだ。踊っている。歌っている。でも、歌は何を言っているのか、さっぱりわからない。きっと琉球語なんだろう。しかし、踊りはしょうずだ。きれいなねえちゃん。ほんとに美人ばかりだった。みんな賑やかに楽しんでいる。

でもこの賑やかさの裏で、心はいつもB52等の怖さでいっぱいなんだろう。そう思うと、あまりいい気持ちでテレビを見ていられない。でも、テレビを見る限り、沖縄の人達は楽しそうだった。テレビで中継しているんだし、司会の宮田輝もおもしろいことを言う。それで観客は大いに笑い、賑やかなのだ。

沖縄から早く返事が来ないかなあ。今頃書い

ているのかなあ。ぼくも手紙を出すまで大部
かかったから、あまり急がすことはできないが、
返事が楽しみだ。無事に向こうに着いたのか心
配だな。そういうことは多分ないだろう。

テレビを見た後、ぼくは年賀状を書き始めた。
「おめでとう。今年もよろしく。」「謹賀新年」
「賀正」などいろいろ文句を書いている。でも、
本当にめでたいから、本当に心から相手に愛を
向けて書いているのだろうか。

ぼくが見ている限りでは、そうではないよう
に見えた。ただ、相手が私の所に出してくれる
から、出さないと相手が変な気持ちになるから、
仕方無しに出すように思えた。そんな年賀状は
カッコばかりでだめだ。こんな不誠実な書き方
に、ぼくは少し腹が立ってきた。ぼくの所の姉
ちゃん、その点、最高も最高、最低だ。自分
で書いて出すものを、かあちゃんに書いてもら
っている。ぼくは頭へカッカと来て、はがきを
引き取って、「いやいや書いて、その上、かあ
ちゃんに書いてもらっているくらいの年賀状な
ら書くな。」と言って、引き裂いた。

いやいや書くのだったら書く必要はないんだ。
だけど、いったいこんなこと、誰が決めたんだ
ろう。」

この文章は、私のクラスの6年生の奥野正昭
が12月26日の生活ノートに書いたものである。
この後彼は、私に次のような年賀状をくれた。
あの狭い紙面に、虫眼鏡で読まなければならない
ような小さな字がぎっしり詰まっていた。

「おめでとうございます。ぼくにとってはあま
りおめでたくありませんが、先生と知り合っ
てからは、4年生までの生活とガラリと変わって、
先生流、いや紺清流の方法で生活を始めた。田
んぼをちらりと見ただけでも思い出すことがい
っぱいある。

巨大な雪の芸術。長さ50m、高さ15mのスフ
ィックス。目のあかぬような吹雪の日でも、寒
さに震え、手を痺れさせてながら、絶え間なく
作った白い神。体育の時間や図工の時間、放課
後と、ぼく達はスコップと一輪車の奴隷となっ
た。ついに完成！

あの時初めてぼく達は働く喜びを知った。終
わった時のあの清々しい何とも言えない気持ち。
働くということは最高のことだ。ぼくら百姓は
稲を作る。ものを作るということは最高だ。人
間は創造することが大切なのだ。壊すことは軽
いが、作るということはたいへん困難なことだ。
そしてそれよりはるか上のもの、人間を作ると
いうところまでいかなければいけないのだ。

それからこういうこともあった。あの頃のぼ
く達の頭の中は「自由とは、自分の好きなこと
をやることだ」と思っていた。そしてぼく達は
そのことを先生に要求した。ぼく達の先生は変
わり者だから、ちょっと考えていたが、ぼく達
に自由な日を一日くれたのだ。ぼく達はそれぞ
れ学校で自分勝手に行動した。勉強する者、寝
る者、スキーに行く者。だが二時間、三時間と
たつうちにだんだん飽きてき。結局全然おも
しろくない一日だった。あの一日のぼく達のだ
らしなさ。まるで死んでいるような生活を送っ
た一日。ぼく達はそこで初めて新しい一つのこ
とを発見した。自由とはそんな生易しいもので
はない。もっと深い意味が、自由の中にはある
のだということが。

こんなことをしながらもぼく達の生活は、そ
の頃いきいきとしていたようだった。いつも苦
しみにぶちあたり、それを乗り越えていった。
大きい山、小さい山を越える。人間の一生は山
登りをしているのと同じだ。そして、先生のい
う真理、愛、誠実がいつも頭の中にあった。

それが、6年生になると、複式になったため、
5年生がぼく達の新しい仲間になった。それか
ら少しずつぼく達はボロが出始めた。全く班
に協力しないヨッチ。どれだけ追求しようがヘ
ッチャラ。毎日毎日遅刻、忘れ物のオンパレ
ードだ。のろまで、毎朝家へ呼びに行ってもなか
なか出てこない。みんなで背中を押しながら学
校へ連れてくる。どれだけ皆と一緒に遊ぼうと
言っても一人でいる。班員が交替でヨッチの家
へ毎日掃除に行っても、次の日行くと、部屋は
またバタバタ。とにかくやる気がないんだから。
刑務所へ行ってもいいと言うんだから。「真理
なんかいらん。ぼくなんかどうなってもいいも

ん」だから、誉めても怒っても叩いても、みんなダメ。4月から7月までの間、ぼく達の生活ノートはヨッチ、ヨッチでギッシリ。家の人は「ウチのダラ」といって全く関心なし。先生もホールドアップでノイローゼ。ぼくもノイローゼ。先生は一度物凄いのには叩いたけれど、ワーンと泣くだけで一時間もたつとケロリ。先生は、人を叩いて言うことをきかすことはできない、ダメだということがわかった。そしてついに先生は決断した。今はルンペンだ。先生もぼく達も、これがヨッチンを良くする最後の方法だと思ったのだ。

それからもう4ヶ月が過ぎた。以前として班に入ろうとしない。先生は時々「おまえ、そろそろ班へ入れてもらたろうや。」と言うが、「どうせみんな入れてくれんやろ。」で終わってしまう。今は広い体育館を一人で掃除している。先生はぼく達に「どんなにヨッチを見てイライラして、何か言いたくなってもグッと我慢しろ。つらいだろうが、見てもられないみんなの気持ちはよくわかるが、そうしないといつまでたってもヨッチは、協力の素晴らしさがわからないんだ。かまうな。怒るな。もうしばらく一人でじっと考えさせてやれ。」と言う。初めはぼく達も辛かったが今は慣れてきた。時々物凄く憎らしくなることがあるが、そんな時、先生は「ヨッチはおまえらの鏡だ。宝だ。」と言う。ヨッチを憎らしく思う心が起こった時、自分の心から愛が消えていくからだ。一人でも嫌いな人間ができれば、真理ははるか向こうへ去って行く。それで、三学期こそヨッチが班に入ってくれることをぼく達も先生も願っている。

こんなふうにして、ぼく達は段々変わってきた。二学期は説教の連続だったが、そのたびにぼく達は先生からいろいろと大事な事を盗んできた。

だが、これくらいではまだまだダメだ。森本中学を引っ張っていく力なんかつくはずがない。反対に引っ張られる。卒業まで日は短い。一日一日をぎりぎりいっぱい生きていかなかったら「ああもう卒業か。」というふうになってしまう。だからこの冬休みの間いっぱいエネルギー

をためておくぞ。そして三学期はエネルギーのあるだけを出して考える。中学に行ったらすごい奴がうじゃうじゃいるからな。ボサッとしておれんぞ。ぼく達は森本中学を引っ張ることで満足しない。宇宙の支配者になるんだ。その第一歩として森本中学だ。三学期はもう目の前だ。のんきにしていられないぞ。忙しく、厳しいんだ。たるんだ根性でいるなよ。と、いつも自分に問い掛けることが大切だ。自分との対決であり、21人との対決だ。そして先生との対決だ。いつもギラリとした目で対決。

最後に先生、あまり酒飲むなよ。自分だけの体でない。みんなの体、世界の体であることがわかっているのなら、ちょっと手加減しなきゃ男がすたるぞ。十二指腸が泣くよ。今度休んだら承知しないぞ。バイバイ。またね。一月八日に久し振りに会おう。元気だね。

金沢市不室町110 奥野正昭(ふじみな男)」

虫眼鏡片手にこの年賀状を、ある意味では喜び、ある意味では「ああまだまだやな。」と思いながら読んでいううち「森中を引っ張る」という所に引っ掛かった。

それで今日は一時間、このことについて話してみた。「おまえ達はすぐに森本中学を引っ張っていくと言う。それは、先生の心の中にもそんな意識があるから言うんだらう。しかしだ。おまえ達が一番可愛いのは誰だ。」「ユン子、どうだ。」「ちょっと考えさせて下さい。」「よし考えろ。」「しばらくたつと皆ボソボソと「やっぱり自分が一番可愛いな。」「そうだろう。自分が一番可愛いんだ。協力、協力、団結、団結と言って、それが最高のものだ」と自分に思い込ませ、他人に要求する。…もう一つ、おまえ達はそんなら可愛いと思う自分を信じとるか。」「即座にユン子が手を上げ「信じていません。いえ、信じられません。」「それは何でやろうなあ。」「その時、勝一が「先生、ぼくは自分が可愛いと思わんな。よくわからんけど。」「うんそうか。それもよからう。そんなら今日家でゆっくり考えてこい。」「自分が可愛い。自分を信じていない。そんな悪人であるおまえ

達が、どうして森中を引っ張っていけるんだ。そうでないか。いやまた新年早々弱ったことになったな。これが三学期の勉強の中心だ。みんな本当の人間になりたいんだろう。どれだけ金儲けして好きな物を買っても、好きな所へ行っても、たとえ総理大臣になっても、それでよしと言えん自分をもうみんなは知っているからな。そう言う先生も、自分が一番可愛いんだ。オレはおまえ達によって生かされていると言いながら、愛を見とらんのだ。だからこの三学期はこのことについてゆっくり一緒に考えていこう。もう一つ、一日最低4時間勉強というおまえ達が決めた目標を忘れるな。」「先生。」「なんだ。」「なんてばくらは、こうすぐボロが出るんやろな。こんで結構先生に参ったと言わしとるがやけど、最後になるとコッテンパーにやられてしまうな。いつかコッテンパーにやつつけてやろうと思って新聞読んで、テレビ見て、かあちゃんやとうちゃんともゆっくり話して、学校の勉強も班でとことん教え合いして、家でも鉢巻きしめて頑張るとって最後はホールドアップ。ばくらもうわからんかになってきたじゃ。」「それはな。構えるからだ。ハダカにならんからだ。おまえ達の言葉で言えば、イイカッコしようとするからだ。ばくも結構いいこと言うし、少しはましな人間やと思うからだ。そんなものをパツと捨ててんだ。そこで初めて本当の勉強が何かわかってくるんだ。多分おまえ達は中学、高校と進むうちに、紺清は真理やら愛やら誠実やら変なこと言うと思ったわいと思ひ出すことがあるやろう。真理は在る。真理を実現する課題として愛が在り、実現する自己の態度として誠実。ようするに、みんな流で言う、ギリギリいっぱい生きるということが出てくるわけで、この三つはどことこまでも深い意味があり、それは皆がどれだけ逃げてでも追っかけてくるんだ。もう知ってしまったからと言っとった。そんなことわかるかい。間違いでないか、と思う時もあるだろう。それが人間なんだ。精神病院へ行った方がいいんじゃないか。それはそれで生きていける。何かの為、例えば大学へ入る為とか、社長になる為に生きるとしたら、それが実現

した時にはまた何か探さなアカンやないか。

「為」にする生活はダメなんだ。今ここに生きていることが生き甲斐である生き方、苦しいからこそ生きられる。苦しみか生き甲斐である生活をせなアカンのだ。スフィンクスを作った時のことを思い出してみろ。あれは、でっかいスフィンクスを作って皆に威張るのが目的ではなかったんだろう。作っている時は、先生がなかなか休ませてくれんの不満もあったし、先生の目を盗んでサボル者もいたが、結局最後には目もあけられん吹雪の日でも勇んでスコップ担いで行っただろう。苦しいことが喜びであったじゃないか。あれなんだ。これでいいか。」「まあ半分くらいは分かるな。」「三分の二わかる者、半分、三分の一、サッパリ。いろいろいるだろうが、大事なことだということが分かればいいんだ。」「という所で今日の一時間は終わった。

一ヶ月程前のある日、私は学校で読み切れなかった生活ノートを10冊ばかり家で読んで赤ペンを入れていた。12時頃それも終わり、少し頭が冴えてきたので、西谷啓治さんの「ニヒリズム」を時間を忘れて読んでいた。

ハッと気が付いてみると朝の6時。慌てて布団の中に入って寝た。さあ、7時になってかあちゃんが起こすが、頭が朦朧としていて、起こされていると気付くまで30分ほどかかったらしい。かあちゃんのはうるさく「あんたの命が学校で待っとるぞ。行かんつもりか。愛はどうでもいいが。」「と皮肉まじりにいろいろ私の存在を脅かしてくるが、私は「いいがじゃ。子供なんかどうでもいい。とにかく寝さしてくれ。真理も何もいらん。寝さしてくれ。」と意識朦朧とした中でとにかく言い続ける。布団がまくられる。また引っ張る。しまいにはベッドから落とされる。それでも行く気が起こらない。ただ眠りたい一心。

どうにかこうにか目を開けたのが8時。飯も食わず、いやいや学校へ。10分遅刻。そして皆に背いたこんな私を22名の子供達に告白した。22名は口を揃えて言った。「学校へ来たんやさ

かいカンニンしてやる。」

何故、いつも命だと思っている者にさえ私は背くのか。それは「愛がなければ弱る。」という所に私が立っているからなのだ。最近判り出した。私が愛によって生きること、私が生きようとしていること、私の救いだけが問題になっている。

この態度自体がエゴイズム、我執なのである。我執そのものが人間なんだという形にならないで、我執を捨てることで人間になろうとしている私がいる。「愛がなければ弱る。」という事と、「愛を探す」という態度は少しずれているような気がする。

「愛を探す」という態度即、これが生きるという事であり、ここにこそ、苦しいからこそ生きていけるという態度が生まれてくる。「愛がなければ弱る。」という意識で立っていると、苦しみこそ生であるという形なしに、行きつく所そこで立てない自己を知っている故に、なければ死んでやるぞという傲慢さになって表れてくる。だから、そういう態度を純粋に見なければ駄目な訳だ。愛に目覚める事、即ち、我執そのものをよく見れる所から、子供達に対する責任をとる態度が決まってくる。

しかし、ここで責任をとるという事は、自分がどうかするという意味での責任のとり方であり、それは私にとってどうにもできない事である事を知った上で言っている訳で、それにもかかわらず、その事態そのものを責任をとれるとして見ている私がいる。この事自体、全く許されざる事なのである。

それ故、この事が開かれ解かれていく道は、この傲慢さをもう一度、純粋に見ることでしか開かれてこない。意識が人間を見た場合、人間は醜い。しかし人間は、醜いと言いながらその醜さを内で見ず、まだ外で見ている、醜さそのものになっていない。醜さそのものになった時、その時初めて、愛を求める意外にないという態度、愛を求めるという事、これが私の生きる事だという態度が出てくる。

しかし、それは、現在の私がこの事実そのものを純粋に見ていないからだ。だから前にも書いたように、愛がなかったら死んでやるという傲慢な態度になって表れてくる。子供達に対して責任をとれない私が、責任をとったような顔をしてのうのうとしている傲慢さ。これは罪以外の何ものであるのか。私にとっては私が、やはり一番可愛い。

そんな意識を抱えた上での教育。常に背かない子供達に向かって、私は背く。この事が本当に私に響いてきた時、初めて私はただ頭が下がるだけである。この事を踏まえずにいると、私の教師という仕事、かけがえのない命の創造者としての私が生きてこず、子供達も生きてこないものである。さらに言えば、この背かない子供達に甘えている私。ここでもまた、私自身の背きがある。以上述べたごとく、あくまでも、私の意識はつまる所、子供達を覚醒させる事ができず、経済、政治の中で滅んでいく。

結局、私と子供達を結びつけているものは何なのか。何によって一つになるのか。この考えは転ずるならば、一つになるのではなしに、もうすでに一つであるものを見出さなくてはならない。これは何故か。一つに結びつけようとする事は既に分裂しているという事が前提になっている。この分裂という基盤の上で一つに結びつけようとする所に倫理的に根本的矛盾がある。一つにしようとするのではなしに、既に一つであるものに従って生きる。一つであるものの発見が教育の場で明らかにされなければならない。

はぐくむことの中に大変な苦悩がある事。この苦悩を堪え、引き受けていく事。自己自身でこの問題を開いていく事。それが創造なのである。背く者の自覚を通してしか、子供の魂の創造は生まれてこない。世界の心に響く子供達を創造する事、言いかえれば、愛に目覚める事、これが私の願いなのである。

夫婦で挑戦「百名山踏破」

あと「64」 今年は北海道へ



写真屏風を背に今年の登山に思いをはせる向さん夫妻
—金沢市戸水町

戸水の向さん

登頂10年目 足跡を写真屏風に

金沢市戸水町の高校教諭向沖継さん(53)、小学校教諭幸子さん(50)夫妻は一人、日本百名山登頂を始めて、今年で十年の節目を迎えた。昨年、結婚式を終え、これまでに三十六の山を制覇。登山の足跡を手作りの写真屏風にも収めている向さん夫妻は百名山完全踏破へ大張り切りである。

県バスケットボール協会理事長を務める沖継さんは十年前、同僚に誘われて白山に登ってから登山に興味を覚え、学生時代、ワンダーフォーゲル部だった幸子さんを誘い、夫婦で日本百名山挑戦が始まった。向さん夫妻は毎年平均して五、六カ所の山に登り、昨年は福島県の安達太良山など九つの山に登った。これまでの百名山挑戦で、富士山に次ぐ高度を誇り、沖継さんが軽い高山病にかかった北岳など、思い出深い山が多く、向さん夫妻は日本百名山挑戦の歴史を残したいと三年前から、

登山した際の写真を集め、写真屏風作りも始めた。写真屏風には百名山挑戦のスタートとなった白山をはじめ三十六山の風景が収められ、「夫婦登山—写真屏風—」として毎月地区や沖継さんが勤める星稜高の文化祭にも展示された。向さん夫妻は十三年後に百名山を制覇する予定で、沖継さんは「今年には北海道も攻めてみたい。百名山を終えても、結婚式を迎えるまで夫婦で登山を続けた」と二人三脚の登山に夢を込めている。

銀婚式を終え、ただいま青春真っ最中

13期 向 幸子

昨年12月末のある日、主人が唐突に「おい！新聞記者がインタビューにくるぞ」といいます。どういう主旨なのかを聞く間も無く、取材を受けて、1月3日の新聞に載った記事が別掲のものです。後に引けなくなりました。

鹿島槍で銀婚式を祝いました。

主人は高校の体育教師です。結婚当初から「部活動の熱血先生」で私は「バスケットボール未亡人」のようでした。

その主人が61年に同僚と白山登山をして感銘を受けたようです。それから「お母さん山へ行こう」というようになりました。

家族と甥や姪もいっしょに唐松岳、五竜岳、白馬岳、西穂高、木曾駒、御嶽などに登りました。

両親や叔父、叔母の年寄り組といっしょに車やローカイルを使える、谷川岳、草津白根山、乗鞍岳、北八ヶ岳に登りました。

二人で初めて本格的にアイゼンをつけて春の八ヶ岳、赤岳に登りました。

奥穂高や南アルプス北岳に登った年あたりから深田久弥の「日本百名山」がヤマケイなどの本に載り、NHKの特集で放映されるようになりました。

その影響で主人は「うちは夫婦で百名山を目指す」というようになりました。

「青春とは年齢ではない！

目的意識を持って行動しているうちは青春である！

百名山完登をライフワークにしようとしている向夫婦は青春真っ最中」

ということらしいです。

カナダやスイスで思いきり滑りたい

長女も交えて妙高や志賀高原でよくスキーをしました。

娘が3年前、コロラド州立大に留学していたとき訪問して、飛行機の窓から見えるロッキー山脈や、広大なコロラドの大地を目の当たりにし、感動して帰りました。

いま長女はモントレイの大学院で英語教授法の勉強をしています。

娘が就職する前に、娘を通訳にして、主人ともども、カナダやスイスで思いきり滑りたいと思っています。

金婚式は百名山のいずれかの頂きで

トレーニングを兼ねて自転車通勤を28年間続けています。

金婚式は百名山をクリアーして、その中の一番印象の良かった山で迎えたいと考えています。

その時、主人は77歳、私は75歳です。

夫唱婦随。離婚はもちろん、どちらが倒れても目的は達成できません。

いつまでも仲良く、健康夫婦でいたいと思います。





NSK(ナスカ)流域ネット

3川流域で、町村を越え、インターネットで情報交換しながら、地域の未来を考え、実践していくグループ

ナスカの地に情報産業を

ナスカとは

NSKは長良川、庄川、九頭竜川の頭文字。ナスカの地上絵のように、次世代に何かを残したいという希望を現した。

●越美南・北線で福井ー岐阜間を開通させるといふ、20世紀の住民が待ち望んだ「鉄道による地域交流」構想を引継ぎ、我々の手によって、21世紀の「ネットワークによる」地域交流構想へと発展させよう。

●156号線でつながっている愛知と富山の恋人たちの「遠距離恋愛」を応援しよう。

●太平洋と日本海とを結ぶ軸を形成する連携グループとして活動しよう。

●「太平洋と日本海を桜で結ぼう」と夢見た旧国鉄バス車掌、故佐藤良二さんの遺志を継いで、ネットでつなぎ、そして心をつなぐという夢を実現しよう。

活動目標

生き生きとした生活ができる広域コミュニティ、自然や文化を大切にする産業のある地域作りを目指すインターネットを活用して、仲間と意見交換しながら、実験をして確かめつつ、ビジョンを作り、それを地域に提案していこう。

・地域の未来は自分で考え、自分で確かめて選択しよう

・ナスカの地に情報産業を育てよう

メンバーの所属町村

富山県: 庄川町

岐阜県: 白川村、高鷲村、

白鳥町、八幡町、

明宝村、美濃市

福井県: 美山町、大野市

アドバイザー

スマートバレージャパン

地域活動の専門の方多数

11期

ホームページ <http://www.nsk.org/>
連絡先 上村人史 kami@takasu.org

'97.9.5

活動について

●合意形成原則

タブーなし、中心なし、全員が対等、地域外からも議論に参加、ラフコンセンサス、プロセスからの情報公開

●一般公開型、無料のメーリングリスト

・情報交換の場、出会いの場として、誰でもいつでも参加できるメーリングリスト。

・参加／退会はいつでも自由、無料。

・実名で自己紹介された方がメンバー

自己紹介の後、できるだけ早い機会に写真をお送り下さい。

メンバーとメーリングリスト参加者はメール機能に関して全く同等です。

●プロジェクト

まずは話し合いから。講演会、セミナー、ミーティングなどを順次企画。

目標実現のための活動はプロジェクトで。プロジェクト立ち上げのための合意形成過程にも、目標とするコミュニティのプロセスで(情報の開示→メンバーの議論→合意の形成という一連のプロセス)。

役割、責任分担、費用などはプロジェクト毎に。

写真集第3集を出します

15期 上馬 康生

先日、約1年半ぶりに白山へ登ってきました。私にとっては長いブランクでした。それというのも、平成9年2月に一人で山スキーをはいて白山へ登り、帰りに転倒したのが引きがねとなり、腰椎椎間板ヘルニアで入院、手術となりました。無理をしなればよかったのですが、退院後の不養生がたたって、なかなかよくなり、そのうち頸椎にもヘルニアが見つかり、もうさんざん。約1年間、仕事もまともに出来ない状態が続いていました。しかし今年の2月頃から、十分といえないまでも、ようやくまともに動けるようになり、5月の山小屋を皮切りに、少しずつ山歩きを再開しています。

久しぶりに高山の空気に触れ、山の生き物に接してきました。病気になる前までは何とも思っていなかったのですが、普通に歩けるということは本当に幸せなことです。もう二度と繰り返すことのないことを願って、毎日簡単な筋肉トレーニングを続けています。皆さんも腰には十分注意してください。必要に迫られ本など読んで腰痛について少し勉強しましたので、悩んでおられる方は、たいしたことは出来ないと思いますが一度ご連絡ください。

さて、本当なら一年前に出版を予定していたのですが、遅れてしまっていた写真集の第3集がまもなく出来上がります(7月上旬予定)。昨年2月に白山へ行ったのも、実はどうしても厳冬期の山の上の様子を第3集に載せたく、写真撮影が目的の一つだったのです。ワングル関係者の方々にもたくさん買っていただきましたが、「白山の四季」、「白山の四季Ⅱブナ林」は、おかげさまで版を重ね、全国の方に白山の自然のいくらかを知ってもらえたものと思っています。まだの方は、各都道府県立図書館に贈ってありますので、そこまで足を運んでもらえば見ていただけたと思います。今回の第3集「白山高山帯」は、白山の標高1700mから山頂までに至る範囲の自然についてまとめたものです。そこは、ほとんど人の手の入っていない白山でも最も白山らしいと言えるところだと思います。私が出合った様々な自然とそこで感じたことを一つ一つの画面で表現し、それに解説を少し付けました。雪や地形、植物の他に、空の雲や太陽の光など、高山ならではの自然を取り上げたつもりです。書店などで一度手に取って見ていただければ幸いです。

出版といっても、あくまでも私の趣味の範囲の行為で、その費用の一部を負担し、まったく儲けはありません。費用負担分の本がたくさん手元に届きますので、手渡して近くの方は直接私の方まで申し込んでいただければ幸いです。石川県内の書店の他に、大都市の主要書店には出ると思いますが、なくてもどこの書店に注文しても取り寄せてくれるはずですので、申し込んでいただければ幸いです。



金大は十八日までに、来年度の創立五十周年記念事業として、敷地内に総延長六キロの散策路を整備し、大学全体を自然体験エリアとして整備する計画概要をまとめた。全国的に大学の郊外移転が進む中、自然に調和した二十一世紀型キャンパスのモデルとなる空間を創出する試みで、散策路には湿地帯やあずま屋などの観察拠点を配して地域住民が自然に親しみ、環境保護を考えられるような場にする。

金大 6キロの散策路整備

観察湿地、あずま屋設け

会室のある管理棟を設ける。

総事業費約一億七千万円を投じ、来年度に着手、平成十二年春の完成を目指す。

50周年事業 12年春完成

計画では第二期移転用地を占めた敷地内に散策路の幹線部分四キロ、支線部分二キロを整備し、昆虫や植物などの自然観察ができる「観察遊歩道」、あずま屋やベンチなどを配置し、エントランスゾーンには展示室や集

計画では第二期移転用地を占めた敷地内に散策路の幹線部分四キロ、支線部分二キロを整備し、昆虫や植物などの自然観察ができる「観察遊歩道」、あずま屋やベンチなどを配置し、エントランスゾーンには展示室や集

た整備を進めたい」としている。

国際シンボや

立花隆氏講演も

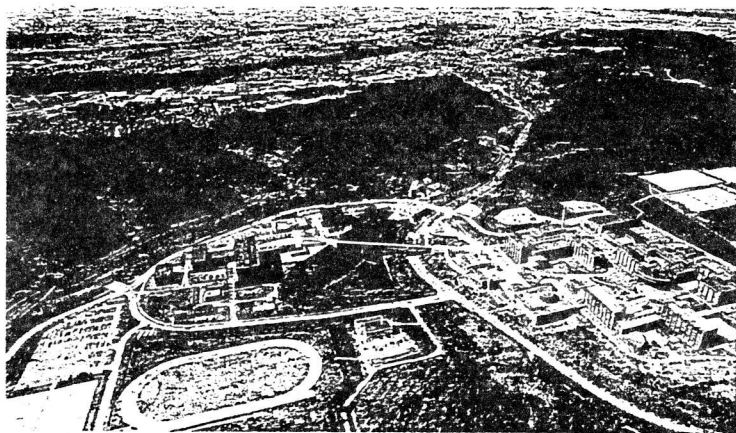
金大は来年度五月二十九日から六月一日まで創立五十周年記念事業を展開する。

地球の水資源をテーマにした「地球・水・人間」と題した国際学術シンポジウムでは米、国、ロシア、カナダ、中国四カ国の専門家を迎え、地球規模の視点で環境問題を考える。

また、北陸の水辺をテーマにした市民シンポジウム、二、三十代の若手研究者が金大の現状と問題点を討論する「若手研究者シン

ポジウム、評論家の立花隆氏を招いた特別講演もある。五十周年記念展示では旧制四高関係の資料などが公開される。

地域に開放 自然体験型キャンパス



地域への開放を目指す自然体験型キャンパスの構想が動き出す金大。金沢市角間町、北國新聞社ヘリ「あずま屋」から

石川軍政隊記者の思い出

大戸 宏

四年間の軍務を終えて復員し北國新聞社の記者として就職、最初の部署が金沢に進駐していたGHQ第八軍傘下の石川軍政隊の記者だった。空襲被害をかんじ二の丸の旧藩司令部、本多町の旧海軍館、西町CIC(Counter Intelligence Corps)に日参、軍が発表する県市当局の示達文書を記事に翻訳して本社に届ける業務に専心した。別に激しい取材競争がある訳ではなく、耳新しい覚え書きと称する検閲済みの記事を書くだけのことで、すいぶん先輩記者に羨まれたものだった。

隊長以下の将校は威厳が、気さくな人たちはばかりで、類はみになるほど親切にしてくれる。当時は貴重な徳車や由話にありつける役得をありがた思ったものだった。

駐屯将兵三百人が利用する旧板の米軍専用慰安所の統計を伝報係のシステム中尉から入手し記事にしようとした時、隊長の中佐から大目玉を食った。「当局が発表する以外のものを報道するのはまかりならぬ」と中尉にともじりながら、一片の角砂糖をポケットにねじこまれたこともある。

被災を受けなかった石川県は軍

政移管が最もスムーズに進んだ土地とされ、GHQの評価は高かった。供米、ヤミ撲滅、選定物資摘発、農地解放などの初期の占領政策は数カ月で終わり、昭和二十一年夏ごろから第三段階の民主化

政策に移る。軍政隊にいた将校の大半が本面へ引き上げ、CIEE(Civil Information and Education)の民政官に代わって代わる。オズボーン、マーチン氏やキーボド中佐といった文人肌が大勢を占める陣容になり、これが県政の将来を担うことになる。

かつての軍部を学部に転換しようとする方針がGHQから示されるのが、二十二年の九月アイケルバ

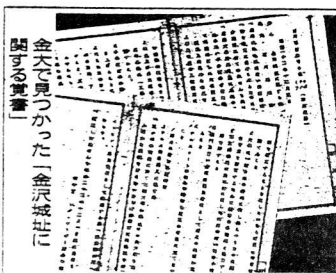
ーガー第八軍司令官の金沢視察で本決まりとなる。隊長のキーボド中佐がキャンパス候補地として金沢城址をまたぐ案内し、三十間長屋や川門、旧七連隊兵舎をみて回るアイケルバガー中将は大満腹だった。

「これは素晴らしい史跡である。軍から移管後も教育文化施設として県市が守り立てていくよう指導すべきである。大学設置にはもつてこの土地と建物があつた。当時の県知事や市長の権限を上回る行政力を持つ、GHQ高官の金沢城址を核とする都市計画構想は、まさに金鉄の重みがあ

文化

金大開学の裏にGHQ

高官ら「金沢城址」に執着



金大で見つけた「金沢城址」に関する写真

った。以来、石川軍政隊の精力的な働きかけに拍車がかかった。

一方で県民の関心も大きく、真宗大寺院など、さまざまな提案が百出した。何と学識者の豊かな土地柄だ。折り自正しい英文の投書が、多くの情報をもたつてくれる。中傷や軍批判もあるが、献策、提言も少なくない。さすがに学部、文化の都市だけである。当時の将校の言葉が、それを裏付けている。

いつのまにか、投書を整理リストを作るのが記者の仕事になった。そのうち隊には多くの文人、学識者が招かれ、民政官と懇談する機会が生まれる。大沢寛、伊藤武雄、川口久雄、大土井源、大河津七郎教授ら二十三人、ほとんどが郷土文化遺産の維持発掘と教育改革に建設的な意見を述べた。これらの提言を受け入れ、軍政隊の文化都市建設五カ年計画の青写真ができた。このほど金

大で見つけたキーボド中佐から知事にあてた意見書は、その一端が垣間見えるもので、

「石川門と三十間長屋を歴史地域として独立の機関が保有にあつた」といつた文面には、金沢城址に対する石川軍政隊やGHQの高官の投資がうかがえる。

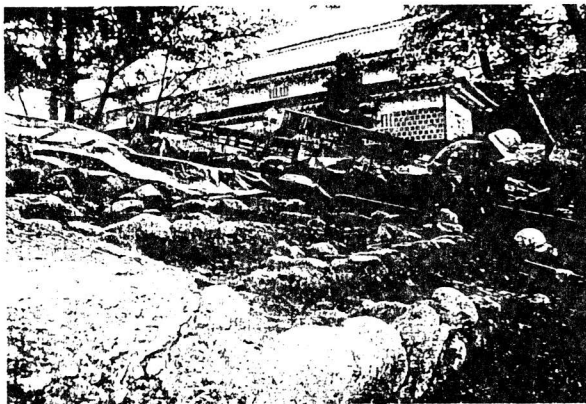
金沢城址(三)に二層大に次ぐ総合大学建設と博物館、図書館、公会堂新設の覚え書きが完成したのは、昭和二十二年の秋ごろ、キーボド中佐が具片に出向いて、柴野知事、井村金沢市長に協力を求め、三具要路を築めた大学設置期成同盟会の発足となる。

この時点で真宗大寺院は消え、真宗ゆかりの蓮山面坊に記念碑建立の構想が加えられた。

昭和二十四年七月の金沢大学開学。一般教養部の授業が旧七連隊兵舎ではじられるというスピードな運の裏にGHQの存在があつたことを知る人は少なくなつた。(おおと、ひろし)随筆家・金沢市

幅20m 金沢城址で最大級

二ノ丸、本丸結ぶ石段確認



江戸中期から末期まで使われたとみられる二ノ丸から本丸に続く石段 = 金沢城址

江戸中期から末期に使用

数回にわたり改修か

県埋文センター

石川県埋蔵文化財センターは十日までに、金沢城址の二ノ丸と本丸を結ぶ橋梁橋周辺の発掘調査で、江戸時代中期から末期まであったとされる石段を確認した。石段は幅二十メートルにも及ぶ城内でも最大規模のもので、数回にわたり改修されたとみられることから、同センターでは、寛永の大火(一六三一年)後に藩主の邸舎が二ノ丸に移つて以降も、本丸が城内で重要な位置を占めていたとみて、引き続き、詳しく調査していく。

橋梁橋の本丸側で確認された石段は、明治期に造られた階段から約二十メートル掘ったところにある。幅は二十メートル、延長も二十メートルある。一段の高さが約二十センチ、奥行きは約七十センチで、斜面を階段状に削り取った表面を細かな丸石で補強してあった。また、石段の上部からは、警護などの目的から幅を狭くするため造られた塀の基礎となる石列も見つかった。塀は、城内の絵図などから、江戸後期に設けられたと推定されている。

今回、確認された石段について、県埋蔵文化財センターでは、宝永年間(十八世紀初)以降の金沢城の絵図に階段状のものが明確に

記載されていることから、江戸中期から末期にかけて二ノ丸から本丸への移動に使用されたとみている。本丸は宝暦の大火(一七五九年)に三階櫓が焼失して以降、倉庫などしかなかったとされているが、今回の石段の確認で、引き続き本丸が城内の要所であった可能性が出てきた。

県埋蔵文化財センターの澤川重徳主事は「今回確認されたのは、石段の基礎部分で、上に平らな化粧石を置いたとも考えられる。石段周辺から出土している瓦などから石段の詳細な設置年代を特定していきたい」と話している。

「金大生」にここまで言うか!

万引は罪、あて逃げは道交法違反

金大の合格発表で番号を探す受験生や保護者、大学側は学生に社会のルールを守る「一人前の人間」として期待している。

11月、金大角間キャンパス



大学側、全新生に手引書

学生反発「子供扱いやめて」

金大は8日までに、初の学生生活の手引書を作製し、新入学生全員に配布した。手引書では、学生保険や訪問販売の注意事項のほか、カンニング、酒の強要は厳禁とするのをはじめ、万引、車のあて逃げ、自転車泥棒が犯罪であることを明示するなど、手取り足取り、社会のルールを記している。旧制四萬の伝統を受け継いで半世紀、学生気質の横並びに頭を痛める大学側は「細かに説明しないと社会常識の規則を守れない学生が増える」と苦しい内情を打ち明け、ルールの順守を指導していく考えである。

手引はA5判三十一ページ、駐車違反、ごみのポイで「心健康」「ルール」捨て書き、それぞれ処分をする。交通事故に遭った「犯罪の被害者にならぬために」「学生生活に役立つ保険」の五項目で構成されている。

「ルールを守る」の項目では、最近学内で自立つルール違反として、カンニングや大学の備品持ち出し。

学生生活のてびき



金大が全新生に配布した手引書

また、金大の学生がかかっていたケースとして平成八年度、八十三件の交通事故が発生しているとし、「飲

酒運転は事故のもと」「バイクに運転する時は必ずヘルメットを着用する」とと訴えている。

金大保健管理センターによると、新入生の中には、親元を離れて解放感に浸り、羽目を外す者も多いたという。手引の作製に当たった大場義樹前学生部長は「今の学生は手取り足取り教えないと分からない面もある。学生には、大学時代に常識ある社会人としてのトレーニングを積んでほしい」としている。

手引を受け取った入学生からは、「もう少しではないのだから基本的なことは分かっているつもり」(教育学部)、「大生にならなくて細かく注意されたくない」との声が上がる一方、「案外知らないことが多く、参考になる」(工学部)など反応も分かれている。

体裁悪いが必要

久野能弘金大文学部教授 手引書に出てくるようなことは大生であれば本来、分かっていることである。しかし高校までの教育が受験を主とした暗記中心で、生徒が社会に必要な一般的常識を教わる機会が少なく、(社会常識を教える)手引書を出すこともむを得ない。大学としては体裁の悪いことかもしれないが、学生に本当の知識と知恵を学んでもらうためにも必要だ。

主将挨拶

4 1 期主将の仕事

- ・主将の挨拶と、部の近況の原稿作成
- ・OB会との連絡
- ・宴会での芸

この程度である。

近年主将という役職は、さほど重要ではない。ただ椅子に座っているだけでワングルはどんどん動いていく。たとえばもしここで僕が半年ほど失踪したとしてもワングルは変わらず動いているのであろう。そのような立場であるワングルの主将でありながら、僕が1年生の時の主将老田さん、2年の時の主将山崎さんの2人は常にその存在感を示しておられました。このような優秀な主将たちの後を継ぐことになるとは考えてもいない事柄でした。ただ現在は、この二人を追い抜くことのできる主将になれるよう日々精進している毎日です。

部の近況

・今年の1年生は何と16人もの入部者がおり、例年よりもかなり多くなっています。部全体としては、4回生が9名、3回生が10名、2回生が11名、1回生が16名の46名となっています。今年の新入生トレーニング山行は、高三郎山でおこなった去年の新トレ、及び秋の小屋作業で、1回生が相次いで滑落したことにより安全面を考慮して医王山で行いました。今年の夏合宿は、北アルプス3パーティー、南アルプス1パーティーの計4パーティーが有り、普段は体力作りを行っています。

*冬合宿偵察 経ヶ岳 12/13~14

L 中野 SL 上田

*冬合宿 経ヶ岳 12/27~29

CL 中野 CSL 上田 (3年7名 2年6名 1年6名)

*医王山雪上訓練 2/22~23

L 竹内 SL 上田 老田 田村 林 得田 野沢 青木 笹田 志賀 矢内 久保寺

*春合宿偵察 大門山

L 上田 SL 小川

*春合宿 大門山

L 上田 SL 小川 (3年3名 2年4名 1年3名)

*1・2年山行

<佐渡 3/25~31>

L 市山 SL 得田 角谷 越前 中内

<天ヶ岳 3/31~4/1>

L 森田 SL 竹内 佐藤 田村 笹田 矢内

<屋久島・宮之浦岳 3/11~14>

L 谷本 SL 長谷川 河村 青木 岩崎



キノネ

98年度

*新トレ偵察 医王山 4/29

L長谷川 SL田村 (3年2名 2年4名)

*新トレ 医王山 5/23~24

CL長谷川 CSL市山 (4年4名 3年6名 2年10名 1年14名)

夏合宿

*峠パーティー 8泊9日 8月上旬

L田村 SL河村 志賀 坂本 越前 小倉 加藤 田中 杉村

立山-剣-五色ヶ原-針ノ木峠-鹿島槍

・第1回トレーニング山行 人形山 6/20~21

L河村 SL田村

・第2回トレーニング山行 白山 7/4~5

L志賀 SL田村

*北ア 上高地パーティー 7泊8日 8月上旬

L森田 SL竹内 笹田 伊藤 中内 神谷 清水 谷上 阿納

上高地-蝶ヶ岳-大天井岳-槍ヶ岳-双六岳-笠ヶ岳

・第1回トレーニング山行 人形山 6/20~21

L竹内 SL山崎

・第2回トレーニング山行 白山 7/4~5

L笹田 SL森田

*北ア 林パーティー 7泊8日 8月上旬

L林 SL佐藤 谷本 石川 角谷 青木 村松 藤井 奥野 矢田部

燕-槍-鷲羽岳-水晶岳-黒部五郎岳-葉師岳

・第1回トレーニング山行 白山 6/27~28

L未定

・第2回トレーニング山行 白山

L未定

*南アルプスパーティー 8泊9日 8月上旬

L市山 SL得田 長谷川 矢内 久保寺 大西 西脇 伊澤 芝

塩見岳-農鳥岳-間ノ岳-北岳-仙丈-甲斐駒ヶ岳

・第1回トレーニング山行 赤兎山 6.27~28

L市山 SL得田

・第2回トレーニング山行 白山

L矢内



ハチワ



「初夏の尾根にて」
イラスト：竹中敬

自然人NO.44 (橋本確文堂) イラストより

OB会報「やまざと」 98夏号

発行日	平成10年7月	金沢大学ワンダーフォーゲル部OB会
発行者	大島 良治	事務局 920-0911 金沢市橋場町10-49
編集責任者	舟田 節子	☎ 076-222-9288 舟田 節子
印刷	プリントショップ多田 (名倉 均 nagura @wnk.njk.co.jp)	